

# クラウン部局所加温による 花きの低温期低コスト栽培技術

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：ガーベラ 他

## 技術の概要

ガーベラなど、極めて短縮した茎（以下、「クラウン部」）を地表面に形成し、このクラウン部から葉と花が分化・発達する形態的特徴を持つ品目に対して、クラウン部に温湯管や電熱線（テープヒーター等）を配置して局所的に加温することにより、栽培室温を下げてでも収量を確保しつつ、加温に要する経費を削減することができる。



温湯管



ステンレステープヒーター

## 効果

### ◎慣行より低い室温でも収量の確保が可能

20℃以上に局所的に加温することにより、局所加温なしの場合と比較して収量と切り花長が増加し、室温15℃（局所加温なし）と同等の収量が得られる。

### ◎投入熱量（静岡県を対象として試算）の大幅減

- ・温湯管（重油）33%減
- ・電熱線（テープヒーター）43%減



クラウン加温なし

クラウン加温あり  
(温水)

## 導入の留意点

- ・室温を下げると結露が発生し、病害の発生を助長するおそれ

施設内の温湿度のモニタリング、加温温度の適切な設定、温風ダクトの適切な配置などによって対処する。

## その他（価格帯、研究開発・改良、普及の状況）

- 適応地域：本技術は全国のガーベラ産地
- その他：ガーベラと同様の植物形態を示す花き品目への応用が期待されるほか、神奈川県ではアーチング栽培バラへの適用研究があり、効果が高いことが示されている。
- 価格帯：ステンレステープヒーター（52m×8本+温度コントローラー）が1セット68万円で販売されている。

## 関連情報

- ・研究成果情報：クラウン部局所加温によるガーベラの花茎発生および伸長の促進（令和元年）

